

明治大学 2019 年度【春期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修先名 オークランド大学

所 属 法学部 法律学科 2 年

留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250~300 字程度)

毎日(土日を除く)2 時間の授業が 2 コマあり、レベル別に分けられた 15 人程度の少人数のクラスで、「書く・話す・聞く」のすべての英語技能にまつわる授業を受けました。時期の関係もありクラスの大半は日本人でしたが、実際のところ国籍はさほど問題にはならず、やはり全員が英語力向上という共通の目標を掲げていたからか、積極的に発言しコミュニケーションをとることが、常に求められました。そのかいもあり、出発前に今回の語学研修での言語学習に関して立てていた、「度胸をつけること」と「英語を英語のまま話すこと」という 2 つの目標を達成することができたと感じています。

課外活動等、授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250~300 字程度)

基本的に平日は学校近辺を観光し、毎週末に少し遠出をする、という形で過ごしていました。最初の週末には、学校側が用意してくれていた課外活動の一つである、ワインツアーに参加して、ニュージーランドの自然に触れました。他の週末には、オークランド博物館という市街地からほど近い場所にある博物館を訪れ、マオリ文化や世界大戦に関する資料を見ました。この博物館には世界大戦中の各国の様子もまとめられており、日本のブースでは零戦が展示されていました。平日には、オークランド美術館に行き、偶然期間限定で展示されていた浮世絵を見ました。2 度も他国視点で日本文化に触れることができ、非常に興味深い経験をすることができました。

滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250~300 字程度)

現地での生活を通じて様々な経験をしましたが、何よりも多角的視野を身につけることができたのが、自分にとって非常に大きいものでした。これには、ニュージーランドという土地柄が深く関係しています。1 ヶ月間生活している中で、ニュージーランドには様々な人種の人々が共存していることが分かりました。さらに、そこには一切の偏見もなく、皆が互いを尊重しながら生活しているように感じました。それは人々だけでなく、文化にも共通していえます。マオリの文化もちろんですが、各国の文化が入り混じっていて、非常に興味深かったです。たった 1 ヶ月間という短い期間ではありましたが、偏見を持たずに互いに尊重し合うという価値観を身につけることができました。

今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250~300 字程度)

私は今まで「英語が話せるようになればいいな」という受け身的な展望しか持っていませんでしたが、この研修を経てその考えは大きく変わりました。よく日本の英語教育は無意味だと非難されますが、研修中、様々な面でこれまでの英語教育で身につけた英語の基礎力の重要性を体感しました。当たり前のことではありますが、基礎が成り立っていないと正確なコミュニケーションは取れません。そして、この基礎が成り立った段階から、更に語学研修などに参加することでステップアップしていくことが必要になります。今までのような受け身の姿勢ではなく、今後は自ら英語により触れていこうと考えます。

写真貼付 (1 枚)

※研修先で撮影した写真を 1 枚 (1MB 以内) ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

2020 年 2 月 29 日撮影
“Auckland War Memorial Museum”



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします(学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。